

東 風

第19号

平成16年 3 月

「学習意欲の喚起」
「長期研修の勧め」

島尻教育研究所 所 長 喜名 盛文
島尻地区校長会 小学校会長 徳嶺 光宏

□実践事例紹介

島尻教育研究所 第19期 教育研究員

○教育講演会 ○公開授業
○平成16年事業計画

○学校現場で使えるカウンセリング実践講座
○長期研修計画一覧 ○新規購入図書一覧

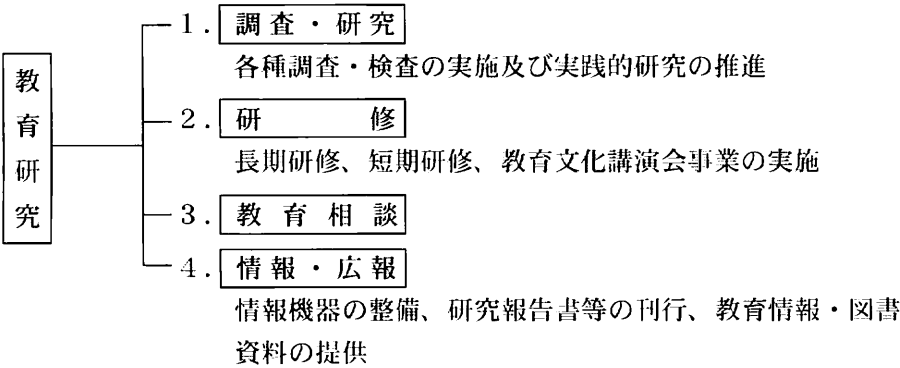


南部広域行政組合
島尻教育研究所

●設置の目的

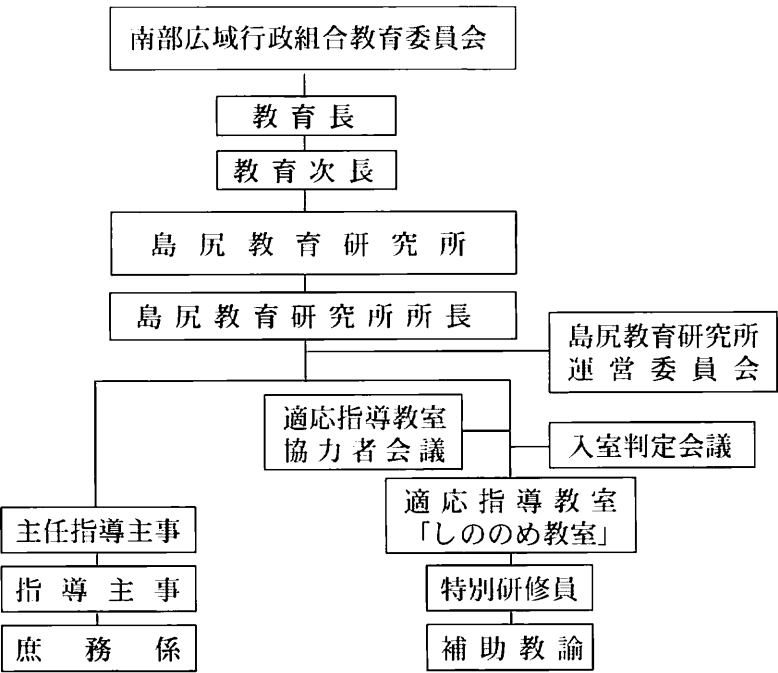
教育に関する調査・研究及び教育関係職員の研修を行い、資料提供並びに教育相談等の事業を通して島尻地区に於ける教育研究の中核的な存在とする。

●事業の四本柱



●組織・機構

1. 組織・機構



2. 所 員

職 名	氏 名	しののめ教室	
所 長	喜 名 盛 文	職 名	氏 名
主任指導主事	安谷屋 守 松	特別研修員	城 田 由 勝
指 導 主 事	甲 斐 英 児	補 助 教 諭	山 内 修 子
庶 務	宮 里 紀 子	補 助 教 諭	知 花 優 希

目 次

「学習意欲の喚起」

島尻教育研究所 所長 喜名 盛文	1
------------------	---

「長期研修の勧め」

島尻校長会小学校会長 徳嶺 光宏	2
------------------	---

1 平成16年度行事計画	3
2 平成16年度長期研修計画	5
3 創立10周年特集「おかげさまで10周年」	6
4 教育講演会「心豊かな児童生徒を育むために」	7
5 公開授業「あたたかな人間関係づくり」	8
6 学校現場で使えるカウンセリング実践講座	9
7 しののめ教室から 「関わることが解決の第一歩」	
適応指導教室「しののめ教室」 特別研修員 城田 由勝	10
8 研究員実践事例紹介（第19期教育研究員）	
(1) 与那原町立与那原幼稚園 教頭 照屋 信子	11
(2) 糸満市立兼城幼稚園 教諭 稲嶺 彰子	12
(3) 知念村立知念小学校 教諭 池城 路子	13
(4) 玉城村立船越小学校 教諭 上原 純子	14
(5) 豊見城市立豊見城小学校 教諭 花城みどり	15
(6) 南風原町立翔南小学校 教諭 又吉 孝子	16
(7) 南風原町立南星中学校 教諭 野原 麻紀	17
(8) 糸満市立糸満中学校 教諭 角田 るり	18
9 長期研修を終えて	
第19期教育研究員委員長 池城 路子	19
10 平成16年度教育研究員一覧	20
11 実践事例集（第1集～第4集）の紹介	21
12 平成15年度新規購入図書一覧	22
13 島尻教育研究所 逍遙歌	23



学習意欲の喚起

島尻教育研究所
所長 喜名盛文

私たちは先が見えているときには、今どうすればよいか、の判断がつきやすい。すなわち、目標が明らかであるときは、今しておいた方がよいことは何か（必要性）を考やすい。また必要性を実感できると、意欲が高まり、それをどのように行えばよいかを主体的に考えて行動を起こすことができる。このように、意欲の高まりや主体的に考えて行動する態度は、明確な目標にもとづいて生まれる。

ところで、授業にとって、子どもたちの学習意欲を喚起することはきわめて重要である。これまでも学習意欲を喚起するためにいろいろな手だてが講じられてきている。しかし、文部科学省の調査によると、子どもたちの学習状況は、知識や技能の習得はおおむね良好であるが、学習が受け身であり、学習意欲に乏しいこと、家庭学習時間も不十分であることが指摘されている。

したがって、学習意欲を喚起することについては、これまでの指導の在り方を振り返ってみる必要がある。その一つは授業の場面を振り返ってみることであろう。

授業は、子どもたちがその時間の学習に見通しをもつことができるように、めあて（目標）を確認してから展開される。しかし、一定期間継続する授業において、あらかじめ、全体に見通しをもたせておく工夫は従来あまり行われていない。例えば、単元の導入に際して、単元の学習目標や学習内容などを子どもたちに示すことは少ない。ましてや年度のはじめに、年間の学習計画を子どもたちに知らせることはしていない。子どもたちにとっては、学習の目標を明らかにするための情報が不足している状況にある。

子どもたちが学習を自らの課題として受けとめ、学習を意欲的に進めることができるようにするためには学習目標を明確に把握させる手だてを工夫する必要がある。

シラバス —— 聞き慣れない言葉である。県立総合教育センターの研究紀要には「シラバスとは、いわば学習案内の一つで、学校で行なわれる授業等の年間の学習について、それぞれの教科のねらいや身につけたい力など、何を、何のために、どのように学ぶかをあらかじめ児童生徒に示すものである。」と、説明されている。本県では、高等学校においてすでにシラバスの作成が進められる。小中学校のシラバスについては、現在、県立総合教育センター教科研修課でその作成についての研究が進んでいる。シラバスは様々な教育効果が期待されているが、学習に見通しをたせ、学習意欲を喚起する手だてとしても興味深い。

学習意欲の喚起は教科指導にかぎるものではない。進路指導や教育相談などあらゆる教育活動をとおして行うものであることを大切にしたい。



長期研修の勧め

島尻地区校長会小学校会長 徳 嶺 光 宏
(具志頭小学校校長)

校内研修，行政研修，民間研究機関や自主的研究組織による自主研修が数多く計画され，提供されている。このような数多い研修機会は学ぶ意欲のある者にとって願ってもない研修環境である。

研修のねらいは言うまでもなく先進的な実践や考え方を学び自己の指導の改善充実に生かすことである。研修に臨む基本は，「子ども愛」に裏付けされた教師の「自己責任」であり，「子ども」たちのために先進的な実践や考え方を主体的に受け入れて自分の今後の指導法や指導観に生かす謙虚さと課題解決と改善に立ち向かう向上心であるとする。個別の研修はそれ自体がそれぞれに大きな意義を有しており，短期間の研修でも大きな成果を得ることが出来るが，私はより効果を高めるためにも長期の研修を勧めたい。

私の長期研修は「県立教育センター」で行った6カ月研修であった。当時私は，宮古のある中学校で勤務しており，家族と離れての研修であった。当時，教育センターは首里竜潭池の畔にあった古びた建物で，そこで多くの研修生が各テーマに沿って研究に取り組んでいた。私にとってこの6カ月の研修期間は多くの収穫を得た貴重で楽しい期間であった。6カ月の長期研修の大きな収穫は，①自己の研究テーマについての広がりや深まりはもとより，②他研修生との交流を通して仲間の広がりや共に多くの情報を仕入れることが出来，③学校で経験できない貴重な研修の機会にも恵まれ，④何よりも長期間学校を離れることによって学校，自分を「外部」から見つめることが出来，学校の良さと抱える課題を自分なりに冷静に，客観的に見つめることが出来たことであった。学校現場は多忙であり，じっくりと時間をかけて物事に取り組む余裕がない。私にとって6カ月の長期研修は，ゆとりの中で冷静さを持って自分や周囲を見つめ，考える時間を与えてくれた研修期間であった。

学校は，「新しい時代を切りひらく心豊かでたくましい日本人の育成」を目指して日々実践を展開している。たくましく個性的に生きる児童生徒の育成に携わっている学校・教師には，社会の現状と社会からの教育への要請を常に的確に把握し，時代に対応した教育活動を柔軟かつ適時・適切に実践することが一層求められている。教員が「その職責を遂行するために絶えず研究と修養に努めなければならない」（教特法）理由がまさにここにあるのである。学校の抱える課題は多様化，複雑化し，従来の経験のみで教育を語り，指導を進めることがますます困難な状況になっている。これまでの自分の指導を謙虚に振り返りつつ，新しい教育知識と方法を身につけ，新たな実践を展開することがますます必要とされている。先生方には「画一と受身から自立と創造へ」の教育改革の基本に立って学力向上，こどもの居場所づくり，公開と評価のための作業等，学校内外の教育課題に立ち向かうためにもこれまでに染みついた「垢」を落とし，新しい「指導法や指導観」を身につけリフレッシュした姿で子どもと接していくことを期待している。

平成16年 3月

島尻教育研究所 平成16年度 行事計画

【前 期】

H.16.3 現在

月	日	曜日	行 事 名
4	1	木	南部広域行政組合辞令交付式
	2	金	前期（第20期）入所式14:00-、指導講師・運営委員委嘱状交付式
	12	月	しのめ教室 入室児童生徒募集要項発送
	21	水	研究計画検討会①
	23	金	研究計画検討会②
	30	金	入室児童生徒応募〆切（教育委員会）
5	11	火	入室児童生徒応募〆切（教育研究所）
	11	火	島尻地区幼稚園教頭・主任等研修会事前説明会
	14	金	島尻地区幼稚園教頭・主任等研修会運営要領説明会11:00-
	28	金	短期研修募集要項発送
	28	金	しのめ教室 入室式15:00-16:00
	31	月	理論研究内容検討会 ～6/2
6	8	火	第1回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	9	水	島尻地区幼稚園教頭・主任等研修会（～10日）
	18	金	短期研修申込〆切（教育委員会）
	25	金	短期研修申込〆切（教育研究所）
	30	水	前期検証授業（保育）開始～7/9
7	5	月	短期研修受講者決定通知発送
	21	水	短期研修「幼稚園情報教育講座」（～22日）
	27	火	短期研修「幼稚園教育講座」（～28日）
8	5	木	短期研修「小中情報教育講座」（～6日）
	11	水	第2回入室児童生徒募集要項発送
	12	木	島尻教育研究所創立10周年記念式典・講演会、祝賀会（予定）
	18	水	研究報告書検討会（～20日）
	18	水	第2,3回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	19	木	第4,5回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
9	15	水	研究報告会14:00-
	16	木	入室希望者応募〆切（教育委員会）
	17	金	後期教育研究員オリエンテーション15:00-
	22	水	第20期教育研究員修了式15:00-、第1回運営委員会13:30-
	24	金	入室希望者応募締め切り（教育研究所）
	30	木	前期教育研究員退所

【後 期】

月	日	曜	行 事 名
10	1	金	後期（第21期）教育研究員入所式14:00-，指導講師委嘱状交付式
	6	水	平成17年度教育研究員募集要項等発送
	22	金	研究計画検討会①
	22	金	第2回 入室式
	25	月	研究計画検討会②
11	5	金	平成17年度教育研究員申込〆切（教育委員会）
	5	金	教育講演会（予定）
	11	木	第6回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	12	金	平成17年度教育研究員申込〆切（教育研究所）
	24	水	理論研究内容検討会（～26日）
	30	火	平成17年度教育研究員決定通知発送
12	16	木	後期検証授業(保育) 前半開始～12/22
1	13	木	第7回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	18	火	後期検証授業(保育) 後半開始～1/21
2	16	金	研究報告書検討会（～18日）
	23	水	平成16年度 実践事例報告会（しののめ教室）
3	9	水	しののめ教室 終了式 16:00-
	16	水	研究報告会13:30-
	18	金	平成17年度前期教育研究員オリエンテーション15:00-
	23	水	第21期教育研究員修了式15:00- ， 第2回運営委員会13:30-
	31	木	南部広域行政組合離任式

※ 行事の期日については，若干の変更もありますのでご了承ください。

長期研修計画

	研修名等	研修内容等	前 期	後 期
1	所内研修①	服務について，研究の進め方について	4/ 1	10/ 4
2	所長講話	教師に求められるもの（仮題）	4/ 5	10/ 4
3	次長講話	行政組合の組織・運営	4/ 6	10/ 5
4	所内研修②	教育心理検査の活用	4/ 8	10/ 7
5	所内研修③	教育改革の動向	4/ 9	10/ 8
6	指導講師検討会①	研究計画検討会にむけて	4/13～	10/13～
7	研究計画検討会	研究テーマ，仮説，研究内容等の検討	4/21～	10/22
8	所外研修①	特殊教育諸学校の視察	5/ 7	11/10
9	所内研修④	教育相談について	5/12	11/ 2
10	所内研修⑤	学級経営について	5/19	11/ 4
11	指導講師検討会②	理論研究検討会にむけて	5/24～	11/17～
12	理論研究検討会	理論研究の内容検討	5/31	11/24
13	所内研修⑥	授業設計について	6/ 3	11/29
14	所内研修⑦	教育評価について	6/ 3	11/30
15	所外研修②	沖縄の自然（野鳥観察）	6/ 4	1/31
16	指導講師検討会③	指導案検討会にむけて	6/17～	12/10～
17	指導案検討会	指導案の検討	6/24	12/ 8
18	検証授業	研究仮説の検証（各自）	6/30～	12/16～
19	所内研修⑧	報告書のまとめ方	7/12	1/25
20	所内研修⑨	書道	7/12	1/ 5
21	所外研修③	環境学習（リサイクルセンター他）	7/13	12/24
22	所内研修⑩	進路指導について	7/29	1/26
23	指導講師検討会④	報告書検討会にむけて	8/9～	2/7～
24	報告書検討会	研究報告書の原稿検討	8/18	2/16
25	所外研修④	コンピュータ実技研修	8/26	2/25
26	所内研修⑪	発表の技法について	8/27	2/28
27	指導講師検討会⑤	研究報告会にむけて	9/1～	3/9～
28	所外研修⑤	更生施設視察（沖縄少年院，女子学園）	9/ 9	2/15
29	研究報告会	研究成果の報告	9/15	3/16
30	所長講話	研修の修了にあたって（仮題）	9/17	3/18
31	所外研修⑥	外国人学校の視察	9/21	3/17
32	所内研修⑫	人権教育について	9/22	3/22

おかげさまで10周年！

－教育研究所が創立10年目を迎えます－

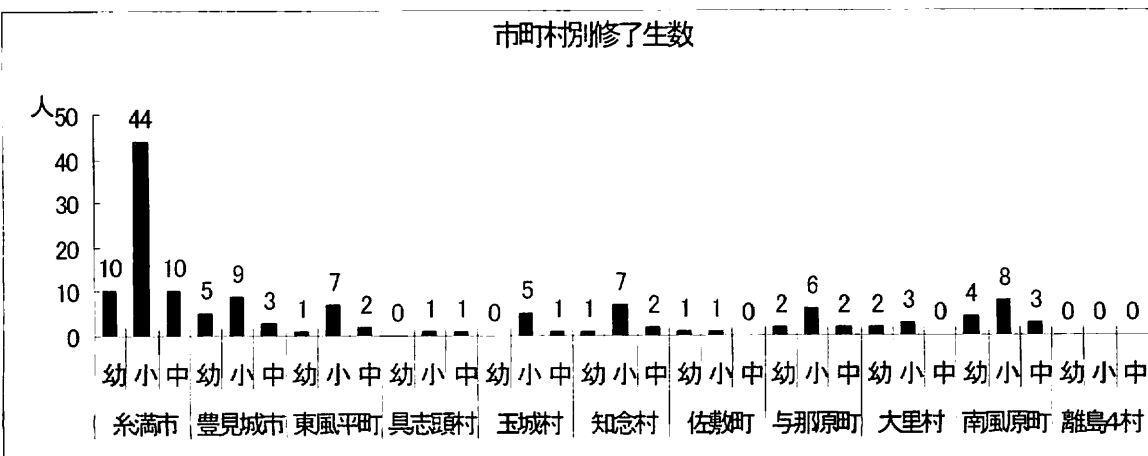
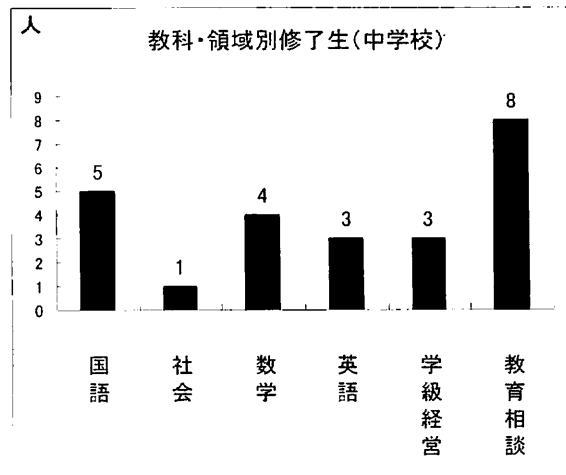
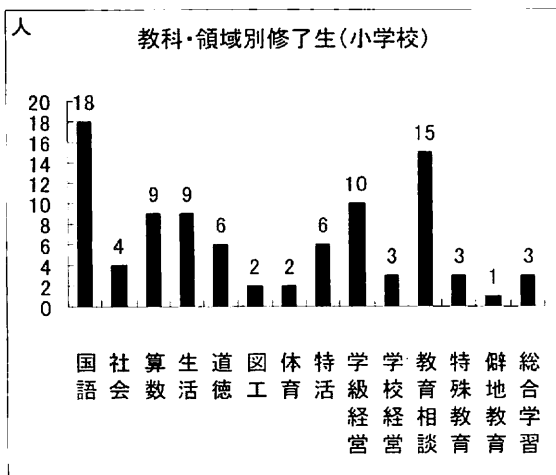
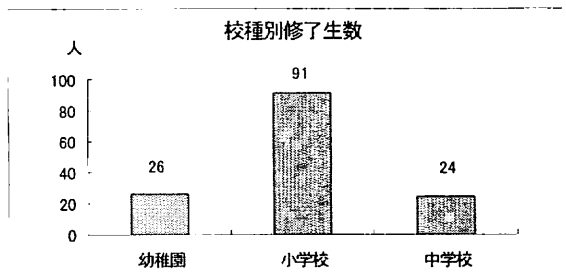
平成6年に開所した、島尻教育研究所もいよいよ今年10年目を迎えます。この間多くのひと々に支えられ、当研究所を修了した教育研究員も141名を数えます。修了生はそれぞれの部署で存分に力を発揮し、島尻管内の教育をリードすると共に学校のリーダーとして活躍中です。

今後も島尻管内の教育研究の中核的存在として、所員一同努力して参ります。

また、教育研究所では、創立10周年を記念して、今年の8月に記念式典、教育講演会などを計画中です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

10年間の島尻教育研究所のあゆみを修了生のデータで振り返ってみました。校種別では年間7名受け入れている小学校の研究員が91名で、最も多く、また、研究領域では学校現場の教育課題を反映してか、国語や教育相談が多くなっています。市町村別では、学校数の多い糸満市が最多の44名となっています。

データで見る10年間



教育講演会

—心豊かな児童・生徒を育くむために—



聖徳栄養短期大学助教授
岡田 弘 先生

平成15年度教育講演会が、岡田弘先生を講師に迎え佐敷町のシュガーホールで開催されました。岡田先生は、日本教育カウンセラー協会の上級教育カウンセラーとして、全国を駆け回る、まさに時の人です。講演会には、幼稚園、小中学校、教育機関などから380名を超える参加がありました。



会場を埋め尽くした参加者。90分間
があっという間に過ぎました。

講演では、カウンセリングの手法をふんだんに取り入れ、いくつかのエクササイズを通して、感情交流を図り会場内に温かな人間関係が生まれました。参加者は、実際にカウンセリングの手法を体験することで、理論と実践を身を持って学ぶことができました。

講演の中で岡田先生は、子どもに接する教師（親）は、まず、自分自身を自己開示し信頼関係を築くことが大切であること、次に

相手を受け入れながら、しかも絶えずよりよい方向を指し示していくこと、いっしょに行動すること、喜びや悲しみを共有すること、待ってあげることなどが大切であると述べました。また、子どもにとっては自分の役割を持つことが、自己有用感を高めることにつながり、集団の中での居場所につながることで、学校としては、担任一人が抱え込むのではなく、組織としてバックアップする体制を築くことが重要であることなどを述べました。

参加者からは、「学級で問題を抱えている子はもちろん、それ以外の子に対する具体的な接し方がわかった。」「教師の非言語の大切さに気づいた。」「子どもの側から自分自身を写すことが大切だと感じた。」などの感想が聞かれました。

参加者の皆さんが、今後の学級経営や授業実践をとおしてよりよい人間関係を築き、豊かな児童生徒を育てていかれることを期待しております。



相手のことを考えながらじゃんけん
する「ころあわせじゃんけん」



エクササイズのあとは、自分の気持ちを振り返るシェアリング。思わず笑みがこぼれます。

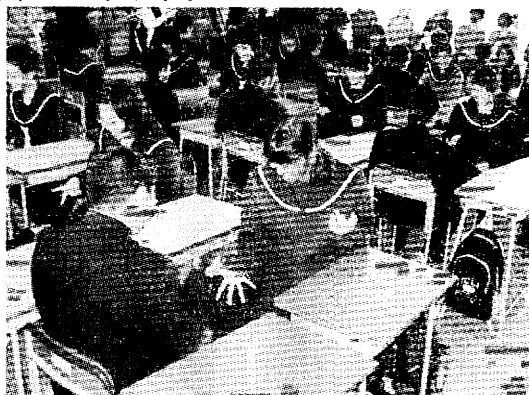
東風平中 1年2組で公開授業

ーあたたかな人間関係づくりー

教育講演会の翌日には、東風平町立東風平中学校の1年2組で、構成的グループエンカウンターによる学活「あたたかな人間関係づくり」の公開授業が行われました。当日は午前中の授業にもかかわらず、60名を超す先生方が参観しました。

岡田先生は、今日の授業のねらいやルールについて生徒と確認した後、「あわせてポン」のじゃんけんで、学級の雰囲気のを和やかにし、さらに「人間イス」や「おおなわとび」などのエクササイズを通して集団の絆を強めていきました。東風平中学校の生徒は大勢の参観者にも臆することなく、楽しそうに活動に取り組みました。

今回の公開授業は、東風平中学校の全面的な協力を得て実施されました。金城佳隆校長をはじめ、学級を快く貸してくださった小橋川あゆみ教諭、学校職員の方々に感謝申し上げます。



相手の出す手を予想するじゃんけん「あわせてポン」では、感情交流を図り関係作りを促します。



膝の上に上手に座れるように心を合わせる「人間イス」で、信頼感を高め協力し合う雰囲気盛り上げます。



「おおなわとび」では、みんなの心を一つにして目に見えない縄を跳びます。

ーお知らせー

教育講演会と公開授業の様子はビデオテープに録画し、教育研究所に保管してあります。学校等でご利用の場合には、お気軽にお電話をください。また、離島の学校は各教育委員会にビデオテープを送付しますので、そちらをご利用ください。

連絡先：098-998-9560

教育現場で使える カウンセリング実践講座

総参加者229名!

島尻教育研究所適応指導教室「しののめ教室」主催の「教育現場で使えるカウンセリング実践講座」が2月5日をもって終了しました。この講座はスクーリング・サポート・ネットワーク整備事業（SSN）の一環として、昨年の10月から全4回にわたって行われてきたものです。



講師：永山盛信先生

最終回となった「リラクセーション」の講座では、沖縄心理臨床研究センター心理カウンセラーの永山盛信先生をお招きしてリラクセス法の演習を中心に行われました。当日は冷雨の降るあいにくの天気にもかかわらず60名を超す先生方が参加しました。

講師の永山先生は、まず、「やりすぎは健康に悪い、何事もほどほどが一番」と参加者に語りかけ、極度の緊張や頑張りすぎを上手に緩和する術として「自律訓練法」を身につけることの大切さを強調しました。その後参加者は先生の指導によって、自己催眠をかけ、心身をリラックスさせる標準練習（安静練習、四肢重感練習、四肢温感練習）や臨床動作法の演習などに取り組みました。



「気持ちが落ち着いている…」
自己催眠をかけていきます。

参加者からは「”ほどほどに”がストレス対処の一番の心得と知りました。現場に持ち帰り子どもたちとのスキンシップを保つためにも実践したいと思います。」や「自分自身がかなり緊張していることが今日わかりました。いろいろな演習をしてそれがわかりました。自分に力が入り過ぎると、やはり子どもたちにもそれが伝わっていくのかもしれない。緊張の中にも”ほどほどに”



自己催眠を解く動作（消去動作）のようす

を心がけたいと思います。」「①発想を変える、②マイナスの言葉をプラスの言葉に変えて受け止める、③いつでも子どもに謝れる、というのが今日のキーワードになりました。一人でも多くの生徒とカウンセリングマインドで接していきたいと考えています。」などの感想が寄せられました。



演習「臨床動作法」のデモンストレーションのようす

これまでの実践講座（4回）には、平日の午後3時からの開始にもかかわらず、のべ229名の先生方が参加しました。今後の現場での実践にお役に立てていかれることを期待しています。

V 適応指導教室「しのめ教室」から



関わることが解決への第一歩

島尻教育研究所 適応指導教室「しのめ教室」
特別研修員 城 田 由 勝

学校現場の先生方から「不登校の児童生徒にどのように接したらいいですか。」という質問をよく受けます。新学年度に不登校児童生徒の担任になったり、ちゃんと登校していたのに、ある日、突然学校に来なくなったりしたとき、責任の重さを感じ、先生方の心配や悩み・苦しみは大きく、どのように接していいか分からなくなってしまうかもしれません。

結論から言うと「不登校対策にマニュアルは無く、一人一人の状態に応じた接し方をするしかない。」ということになります。

ただ、いろいろなケースに共通して言えることがあります。キーワードは「関わり」ということです。家庭訪問、電話、手紙、面談、メール等なんらかの方法で関わりをもつことが解決への第一歩になります。最初は、家庭訪問をしても会ってくれない、電話をしてもとってくれないということがあるかもしれません。それでも粘り強く関わり続けることで、細い関わりから太い関わりへと変化が出てくるはずです。

本人と接点がないときは、保護者と接点をもつように努めます。基本的姿勢は「この問題について一緒に考えていきましょう。」ということです。ここで、保護者と信頼関係が築ければ、解決に向けて大きなプラスになります。逆に、保護者との関係がうまくいかなければ不登校を長引かせてしまうケースが多いようです。絶対に保護者を責めてはいけません。いくら教師が正論をぶつけても保護者にそれを受け入れる準備ができていなければ、逆効果になります。保護者の心をコップに例えると、コップに水が一杯入っている状態では、外から水をいれても溢れるばかりです。まずは、コップの水を出させ、空っぽにしてもらうことが必要になります。そのためには、保護者の悩み、苦しみを聴くということが重要になります。

本人だけでなく保護者とも接点がないケースもあります。そんなときでも粘り強く家庭訪問を繰り返し、メモを置くだけでもいいかと思います。直接関われなくても、間接的な関わりを繰り返し続けることで、ある日、突然、顔を見せてくれたり、声を聞かせてくれたりということが起こってきます。ここからが直接的関わりのスタートです。

直接的に関われるようになったら、家庭訪問や電話等の頻度は、担任の無理のないペースを提案し、本人や保護者の了解をもらうようにします。原則は、本人の意思を確認することになります。

前回も書きましたが平成15年3月に『今後の不登校への対応の在り方について（報告）』（不登校問題に関する調査研究協力者会議）が出され不登校への対応について「5つの視点」が出されました。

その中で「働きかけることや関わりを持つことの重要性」が示されています。ここで気をつけなければならないのは、「適切な」ということです。「適切な」というのは、粘り強く、丁寧な関わりの中からしか判断できません。関わる中で、「今、この子の状態だと、ここまでは言える、ここまではできる」ということが見えてきます。ただ、こちらのペースではなく、あくまでも本人の意思を確認した上で働きかけいくことが重要だと思います。

1 将来の社会的自立に向けた支援の視点
2 連携ネットワークによる支援
3 将来の社会的自立のための学校教育の意義・役割
4 働きかけることや関わりを持つことの重要性
5 保護者の役割と家庭への支援

最後になりますが、不登校の問題は、もつれた糸をほどいていくことに似ています。強引すぎると糸は切れてしまいます。何もしないと解決は先送りされます。粘り強く、丁寧に「ああでもない、こうでもない」と試行錯誤しながら取り組むことが必要になります。繰り返しますが「関わるものが解決への第一歩」です。よりよい関わりのためにも担任一人だけではなく、チームで関わっていくことが今後は重要になってくると思います。

〈幼稚園教育〉



自分や友達のよさに気づき、保護者と一緒に遊ぼう

－ 日々の遊びと保育参加を通して －

与那原町立与那原幼稚園教頭 照屋 信子

(1) 研究の概要

保育参加を通して、幼児が親と触れ合う環境の工夫をすることで、自分や友達のよさに気づいたり自分の感情や意志を伝えたり、人とのかかわることの楽しさや喜びを味わうことができた。

(2) 指導上の工夫点

① 環境の工夫の面から

- ・触れ合い親しむために全体で集まったり、グループに分かれたり、場の構成を行った。
- ・グループで話を進める保護者、教師との打ち合わせを行った。

② 教師の援助の面から

- ・おかあさんの好きなところを幼児が発表したり、自分のよさや友達のよさを聞き、友達のよさにも気づくように援助を行った。
- ・友達や保護者と一緒にフォークダンスをすることで、遊ぶ楽しさを味わうことができた。

(3) 指導の実際



(4) 幼児の変容

- ① 友達や保護者と楽しく遊ぶ姿が見られた。
- ② 集団生活における望ましい態度が見られた。
- ③ 人々との触れ合いを通して、優しさやいたわりの心が見られた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 幼児のつぶやきや表情、行動や内面の動きに気づくことの大切さ、また、全面的に受け入れることで幼児との信頼関係が持てることがわかった。
- ② 保育参加を通して人々を幼稚園に招き一緒に遊んだり、触れ合う活動を工夫することで、親子のかかわりや保護者同士のつながりも深まった。
- ③ 親子や地域の人々と楽しめるような保育参加の持ち方や内容を工夫していきたい。
- ④ いつでも子育てが語り合えるような開かれた幼稚園づくりを考えていきたい。

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載

〈幼稚園教育〉



だんだん楽しくなってきた！

－ 劇遊びを通して －

糸満市立兼城幼稚園教諭 稲 嶺 彰 子

(1) 研究の概要

豊かな感性を育てるために、劇遊びを通して、幼児の気づきや発見を受け止める、イメージを共有し幼児と一緒に環境を整える、友達や教師と一緒に遊ぶことを楽しむ、共感し合える場を工夫するなど援助を試みた。

(2) 指導上の工夫点

劇遊びを通して、豊かな感性を育む環境構成と援助の工夫を行った。

- ① イメージを共有する
 - ・絵本の読み聞かせ、話し合い、効果音
- ② 幼児と一緒に環境を整える
 - ・草原、こやぎの家、時計、井戸、お面、衣装などの小道具作り
- ③ 教師も一緒に遊ぶことを楽しむ
- ④ 共感し合える場の工夫
 - ・幼児の気持ちを受け止める 登場物の気持ちになって遊ぶ

(3) 指導の実際



自分なりにイメージしたり、考えたりする。



友達や教師と一緒に楽しむ

(4) 幼児の変容

- ① 劇遊びの活動を通して、様々な葛藤や楽しみ、関係が作られ、それらは感情、感覚、想像力、共感性を揺さぶることとなり、豊かな感性が育ってきた。
- ② なかなか自分から話そうとしない幼児が、自分の表現が認められたりする経験を通して、自信を持ち、安心して自分の思いを表現し、想像力、共感性が育ってきた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 幼児の感性は、周りの人に受け止められ認められることを通して、安心して自分を表し、友達や教師と遊びを楽しむことで高められることがわかった。
- ② 心を揺さぶる体験や、幼児の興味・関心に沿った絵本を多く読み聞かせし、友達と共感、共有することで豊かな表現につながるよう環境を工夫する。

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載



「読むこと」で考えを広げたり、深めたりしよう

－ 文学教材の重ね読みと考えの相互交流を通して －

知念村立知念小学校教諭 池 城 路 子

(1) 研究の概要

考えを広げたり深めたりする力をつけるために、文学教材の学習において、教科書教材とそれに関連する他の読み物の重ね読み・比べ読みなどの学習活動を取り入れた。さらに、読み取ったことを友達やクラスで相互交流する場を設定した。

(2) 指導上の工夫点

文学教材の学習において、考えを広げたり深めたりするために次のような工夫を行った。

- ① 教材との出会いの工夫
 - ・これから学習する作品の作者に興味を持たせ、教材とのすてきな出会いを図った。
ブックトーク 読み聞かせ
- ② 主体的に読む活動の工夫
 - ・目的意識、相手意識、方法意識を明確にして、楽しく主体的に読み進められるようにした。
アニメーション
- ③ 読み広げる・読み深める工夫
 - ・二作品を教材化し、作者の思想や生き方に気付かせ、お互いの考えを交流させた。
重ね読み・比べ読み 相互交流の場の設定

(3) 指導の実際



相互交流の様子



発表の様子

(4) 児童の変容

- ① 二つの作品を教材化し、重ね読みしたことで、作者の思いや生き方に気付くことができた。
- ② 相互交流の場を設定することにより、互いの考えを比べたり、自分の考えを確かなものにしたり、新たな考えに気付いたりするなど、考えを広げたり深めたりできた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 重ね読みをすることにより、他の作品を読もうとする意欲が高められた。
- ② 交流する活動では、友達の考えと比べたり、良いところを取り入れたりして、考えの広まり、深まりが見られた。
- ③ 相互交流に生かす、話し合い活動の工夫
- ④ 複数教材を位置付けた年間計画の見直し

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載



比例についてよく分かったよ！

－ T・Tを生かした学習形態と算数的活動を通して －

玉城村立船越小学校教諭 上 原 純 子

(1) 研究の概要

確かな学力の向上を図るために、単元「比例」の中で、T・Tを生かした学習形態での個に応じた指導や児童が主体的に活動する授業など、指導方法の工夫をした。

(2) 指導上の工夫点

比例の学習を理解させるために、T・Tでの多様な学習形態を取り入れ、算数的活動を行った。

- ① T1・T2による個に応じた指導の工夫
 - ・○つけ法、声かけ法、プラス面伸ばし法
- ② 算数的活動
 - ・実験、問題解決、問題作り
- ③ 学習形態の工夫
 - ・①T1主導型、②協働型、③習熟度に応じた型、④興味・関心に応じた型

(3) 指導の実際



問題作りをしている様子



T・Tによる個別指導をしている様子

(4) 児童の変容

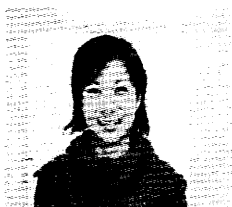
- ① T・Tによる多様な学習形態を行うことで、個に応じた指導ができ、学習内容の理解が深まった。
- ② 実験・問題作り等、児童が主体的に学ぶ算数的活動を行うことで、意欲的に学習を進めることができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① T・Tを生かしたいろいろな学習形態を取り入れ、個に応じた指導をすることによって、確かな学力を定着させることができた。
- ② 多様な算数的活動を取り入れることにより、児童の主体的な学習態度や意欲的な学習態度を育成することができた。
- ③ 児童が主体的に学ぶ課題選択学習のあり方について、もう少し自分なりに深める必要がある。

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載

〈小学校 体育〉



リズムダンスを楽しく踊ろう ー選曲や場の設定、支援の仕方を通してー

豊見城市立豊見城小学校教諭 花城 みどり

(1) 研究の概要

児童の心と体をほぐしてリズムダンスを楽しむために、のりやすい曲の選定や、場の設定、教師の指導や支援の方法を工夫した。

(2) 指導上の工夫点

リズムダンスの苦手意識を取り除き、楽しく踊れるように次のような工夫を行った。

- ① リズムダンス曲の選定
 - ・ アップテンポでのりやすい曲、児童からリクエストを受けた曲を取り上げた。
- ② 場の設定
 - ・ 体育館を4つのエリアに分けたり、簡易舞台を設置するなど児童が踊りたくなるような場を工夫した。
- ③ 児童の心と体に響く声かけや、リズムダンス指導のポイントなど教師の指導・支援

(3) 指導の実際



(4) 児童の変容

- ① 児童なりにリズムの違いを意識しながら踊ることができるようになった。
- ② 授業を重ねるごとに児童の意識が変容し、楽しく踊れるようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① リズムダンスへの抵抗感が薄れ、リズムダンスが好きになった児童が増えた。
- ② 児童なりにリズムの違いを意識し、仲間と踊りを工夫できるようになった。
- ③ 児童がのりやすい音楽を選曲し、リズムダンス用のCD・MDを作成することができた。
- ④ リズムダンスの各学年に応じた学習内容とその指導法を研究したい。

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載



お互いのよさを伝え合おう

－総合的な学習の時間における開発的カウンセリングを通して－

南風原町立翔南小学校教諭 又 吉 孝 子

(1) 研究の概要

望ましい人間関係を育むために、総合的な学習の時間で開発的カウンセリングの手法を取り入れ、人間関係づくりなどのスキルを高める工夫を試みた。

(2) 指導上の工夫点

望ましい人間関係を育むために、次のような工夫を行った。

- ① 学級の実態を把握できるように、教育・心理検査やアンケート等を実施
- ② 総合的な学習の時間の中で開発的カウンセリングの手法（構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング）を生かすための工夫など
- ③ 意図的に集団活動の場を設定し、継続的に取り組む工夫
- ④ ふり返しカードの活用工夫

(3) 指導の実際



あたたかい言葉での
発表の様子



発表会「僕は南風原のヒーロー
カボチャマンだ！」

(4) 児童の変容

- ① 学級の実態に即した、意図的・計画的な開発的カウンセリングの手法を取り入れることで学級生活満足度は、23%から39%に増えた。
- ② 実践カードからは、自己理解や他者理解が深まってきたことがわかり、望ましい人間関係が育まれてきた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 総合的な学習の時間の中で開発的カウンセリングの手法を取り入れることにより、互いに認め合い、自他の考えを伝え合える、望ましい人間関係ができた。
- ② 集団活動を通して、児童は互いの嬉しさ喜びを分かち合い、発表会が近づくにつれて楽しく学び、活動するようになってきた。
- ③ 望ましい人間関係が学習意欲の高まりにつながるような指導の工夫

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載



すらすら音読できたよ！

－「読むこと」における音読と多様な言語活動を通して－

南風原町立南星中学校教諭 野 原 麻 紀

(1) 研究の概要

基礎的・基本的内容の定着を図るために、「読むこと」において継続した音読活動と、3領域1事項相互の関連を生かした多様な言語活動を展開した。

(2) 指導上の工夫点

音読と多様な言語活動を展開するために、次のような学習指導の工夫をした。

- ① 漢字フラッシュカードの活用
 - ・新出漢字をカードにし、毎時間の導入に活用
- ② 教育機器の活用
 - ・関心や意欲を高めるため、情報を効果的に提示
- ③ 既習教材の活用
 - ・フィードバックによる学習の定着
- ④ 評価を生かした学習カードの活用
 - ・生徒の自己評価と教師の形成的評価、さらに評価を次時へ生かす指導と評価の一体化

(3) 指導の実際



「食感クイズ」に挑戦している様子



教科書を音読している様子

(4) 生徒の変容

- ① 毎時間の音読により、教科書をすらすら音読できる生徒が45%から89%に増えた。
- ② 漢字フラッシュカードの活用により、新出漢字をすべて読めるという生徒が15%から96%に増えた。
- ③ 生徒が主体的に活動する多様な言語活動を行ったことにより、積極的に活動する生徒が増えた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 毎時間の音読と多様な言語活動を組み合わせることによって、基礎的・基本的内容を定着させることができた。
- ② 継続した音読指導ですらすら音読ができるようになり、漢字フラッシュカードの活用で新出漢字をほとんどの生徒が読めるようになった。
- ③ 音読の効果的な学習指導法の工夫と、授業のねらいに沿った言語活動の工夫

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載

みんな違ってみんないい！

－構成的グループエンカウンターとグループワーク・トレーニングを通して－



糸満市立糸満中学校教諭 角田 るり

(1) 研究の概要

互いに認め合う関係を育むために、道徳や学級活動の時間に構成的グループエンカウンターやグループワーク・トレーニングを取り入れた。自分や友だちのことを深く知ることで互いに尊重し、認め合うことができるのではないかと考え授業実践を行った。

(2) 指導上の工夫点

- ① 学級の実態を客観的に見つめるために、Q-Uテストやアンケートを実施
- ② 自己理解や相互理解を深めるためのエゴグラムの実施
- ③ 学級の実態に合わせたエクササイズ（構成的グループエンカウンター）の実施
・何でもビンゴ、新聞紙パズル、すごろくトーク、気になる自画像など
- ④ グループワーク・トレーニングの中で役割遂行、合意形成、課題解決などの工夫
- ⑤ 学級を「居心地のよい場所」にする工夫

(3) 指導の実際



何が一番大切か、お互いの考えを出し合って相談している様子



グループとしての考えをまとめ、皆の前で発表している様子

(4) 生徒の変容

- ① Q-Uテストの結果、承認得点が上がリ、学級生活満足群に属する生徒が倍増した。
- ② 一人一人が持っている自己のイメージが修正され、自己肯定感が高まった。
- ③ ふれあい体験を通して、他者とかかわろうとする意欲や態度が見られるようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 道徳や学級活動の時間に構成的グループエンカウンターやグループワーク・トレーニングを取り入れることで、互いの違いを認め合った上で相互に尊重し合えるようになった。
- ② 学級が受容的・支持的な土壌になることで、居心地のよい場所となった。
- ③ 基本的な人との関わりスキルの向上
- ④ シェアリングで素直な自分を出す、または受け入れる「場」の設定
- ⑤ 自分も相手も大切にしたい自己表現（アサーティブ・コミュニケーション）などコミュニケーションスキルの向上

※詳細は平成15年度 研究報告書第19号に掲載

長期研修を振り返って



知念村立知念小学校 教諭 池 城 路 子

草木が萌ゆる躍動の春がやって参りました。そして、私達後期研究員の修了の日も近付いて参りました。

思い起こせば昨年の10月、期待と不安を胸に、島尻教育研究所第19期生として、私達8名は入所して参りました。研究のテーマや目的は違えど、教育に対する情熱で、私達はお互いを理解し合い、素敵な仲間になりました。それぞれが素晴らしい個性の持ち主です。

そんな私達を、いつも寄り添い、懇切丁寧にご指導下さったり、叱咤激励して下さいました先生方、本当にありがとうございました。

「理論ある実践を」と、厳しくも温かくご指導下さった安谷屋主任指導主事。パソコン指導など、優しくも真剣にご指導下さった甲斐指導主事。お父さんのように大きな包容力で的確に指摘しご指導下さった喜名所長。理論の項立てから始まり、指導案の作成、検証授業、報告書、発表へと納得のいくまで、幾度も幾度も検討会を持って下さりご指導下さいました。

毎朝行われる、月・水・金のミーティング、火・木の情報交換会、月曜日の朝に合唱する逍遙歌。そして「3分間スピーチ」や「大切な話」などはとても楽しみでもあり、また、喜名所長、安谷屋主任指導主事、甲斐指導主事、研究員8名のいろいろな体験や考え方を聞くことができ、その人生観世界観に触れ、自分を見つめ直す良い機会でした。

所内研修では、所長の講話を始め、玉寄局長の「広域行政」の講話、知花課長の書き初め指導、城田先生の「教育カウンセリング」等、貴重な体験で、学ぶことが沢山ありました。運営委員長の宮城恒彦先生のご講話やたびたびの温かい激励に大変感謝しております。また、豊かな経験から研究に対する直接の助言を賜りました。このように、私達は、多くの方々から、教職に携わる者としての責任と誇り、情熱と真剣さを教わりました。

所外研修では、「環境学習」として浦添クリンセンターやリサイクルプラザで、ゴミ問題の深刻さを、森川養護学校・島尻養護学校の施設訪問、交流で子供達の純粋さを、先生方の真剣さを学びました。さらに、「環境教育講座」で、野鳥の観察をして、シベリヤからはるばる来る鳥たちが安心して渡れるような環境を作らねばとしみじみ考えさせられました。「進路指導」講座では、幼稚園の時期の大切さ、幼・小・中の連携の必要性を知りました。コンピュータ研修では、CCC本社でパワーポイントを習い、発表会に生かしています。また、沖縄少年院や沖縄女子学園、外国人学校が今後予定されています。このように盛り沢山の研修を体験させて頂き、自分の視野を大きく広げてくれました。

クラブ活動では、沖縄の伝統である三味線に触れることができ、感動でした。「エエ四」を読めるようになり、まがりなりにも「安波節」「上り口節」「安里屋ユンタ」三曲を弾いています。

研修内容も多種多様にわたり、素晴らしい研究のできる環境で、私達は、毎日が学びと感動、感謝の連続でした。それもひとえに、喜名所長、安谷屋主任指導主事、甲斐指導主事を始め、南部広域行政組合の方々、少年の翼の方々、しののめの先生方等まわりの沢山の方々のおかげです。大変世話になりました。

末筆になりましたが、校長先生を始め学校側の協力も有り難かったです。とりわけ、研修の間補充をして下さった先生方、子供達を慈しみ指導して下さいありがとうございました。人間性豊かな創造性豊かな日本人の育成のため、私達は四月から、それぞれの学校現場で研修したことを必ずや生かし、さらに精進して参ります。本当にありがとうございました。

平成16年度 教育研究員氏名一覧

【前期】

校 種	研究領域	氏 名	所 属	予 定 研 究 テ ー マ
幼稚園	幼稚園教育	登 紀美	糸満南幼	園庭の自然環境を生かす工夫
小学校	国 語	宮城 美智子	光洋小	基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫
	教育相談	古堅 みさえ	糸満南小	よりよい人間関係を育む援助の在り方
	道 徳	土居 徹	大里南小	夢や希望を育てる道徳の時間の工夫
中学校	社 会	松下 啓子	長嶺中	基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫
	教育相談	上原 淳	具志頭中	普通学級におけるADHD、LDなど障害児生徒の対応と組織作り

【後期】

校 種	研究領域	氏 名	所 属	予 定 研 究 テ ー マ
幼稚園	幼稚園教育	高良 則子	翔南幼	心豊かな幼児を育てるには
	幼稚園教育	伊集 恒子	玉城幼	幼稚園において環境教育をどのように取り入れ援助していけばよいか
小学校	国 語	宮平 やすみ	北丘小	伝え合う喜びを味わい、自分の思いや考えを表現できる子の育成
	算 数	森 力	南風原小	個に応じた指導と評価の一体化
	社 会	仲村 保	長嶺小	体験的活動の中から生学ぶ楽しさが分かり、自ら調べ考える力を育てる社会科学習
	生 活	新崎 蘭子	佐敷小	体験的活動の中から生まれる知的な気づきが深まる学習活動の工夫
中学校	英 語	桃原 秀美	長嶺中	基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫
	社 会	比嘉 正樹	伊良波中	生徒が自ら考え主体的に取り組む授業の工夫

実践事例集の紹介

～実践事例集(第4集)発行!～

島尻教育研究所の調査研究事業の一環として、「研究協力員事業」があります。この事業は現場の先生方を研究協力員に委嘱して、2カ年の任期で実践的な研究を進めて頂くものです。研究の成果は、「実践事例集」として2年に一度発行し、下記のように第3集まで各幼稚園・学校へお届けしてまいりました。

この度、平成14年・15年度の研究のまとめとして、「実践事例集(第4集)」ができました。各幼稚園・学校で、ご活用頂ければ幸いです。

(1) 実践事例集 第1集 (平成8、9年)

年 度	教科等	研 究 テ ー マ
H. 8 ～9	小学校 国 語	学校図書館の活用を取り入れた国語の授業づくり
	小学校 道 徳	「豊かな心をもち、主体的実践力を育てる指導の工夫」 －教科・特別活動等と関連を図った道徳の授業を通して－

(2) 実践事例集 第2集 (平成10、11年)

年 度	教科等	研 究 テ ー マ
H. 10 ～11	小学校 学級経営	楽しい学級づくりのために －ヒント集－
	中学校 生徒指導	「不登校生徒への様々なアプローチ」 －事例を通してのマニュアル作成－

(3) 実践事例集 第3集 (平成12、13年)

年 度	教科等	研 究 テ ー マ
H. 12 ～13	小学校 国 語	相手の立場や考えを尊重しながら言語で伝え合う能力の育成 －伝え合う力を育てるための授業の工夫－

(4) 実践事例集 第4集 (平成14、15年)

年 度	教科等	研 究 テ ー マ
H. 14 ～15	幼稚園教育	生きる力の基礎を育む保育の工夫 －充実した園生活を送る中で生きる力を育む援助のあり方について－
	中学校 数 学	生きる力を育む教科指導の工夫 －基礎的・基本的事項の定着を図る指導を通して－

平成15年度新規購入図書一覧

書名	著者等	発行所
国語		
新しい国語科授業の実際	小森 茂	東洋館出版
イラストでつかむ子どもに「学習プレゼン能力」を育てるノウハウ	熊大情報教育研究会	明治図書
プレゼンテーションは話す力で決まる！	福田 健	ダイヤモンド社
楽しく学ぶ「話し方・聞き方」ワーク 小学2年	瀬川榮志	明治図書
子どもが輝く国語科授業 書くこと編	大越和孝	東洋館出版
新国語科「言語活動例」の具体化	小林茂	明治図書
音声言語能力の育成	文京区立窪町小学校	国土社
向山型・説明文の授業	向山洋一	明治図書
新指導要領対応 最新中学国語の授業文学説明文1年	岩田道雄他	民衆社
国語の「基礎・基本」の学び方	柴田義松	明治図書
中学校説明的な文章の指導法	河野庸介	明治図書
説明文の授業	田近洵一	国土社
国語の「基礎・基本」の学び方	柴田義松	明治図書
「キーワード」でわかる新国語科	小林茂	国土社
社会		
小学校社会科、基礎基本と学習指導の実際	北 俊夫	東洋館出版
算数		
算数科習熟度別学習の実践方法	小島宏	明治図書
体育		
はずんで！踊って！楽しい表現運動の学習(小学校編)		文部科学省
すぐ使える体ほぐしの運動136選	池田延行	明治図書
「体ほぐしの運動」活動アイデア集	村田芳子	教育出版
英語		
8つの助動詞で気持ちが伝わる英会話	向井京子	NOVA
新学力観に立つ英語科の授業改善	影浦攻	明治図書
教育相談		
学校でのピア・サポートのすべて	中野武房	ほんの森出版
ブリーフセラピーを生かした学校カウンセリングの実際	栗原慎二	ほんの森出版
ピア・サポート指導案&シート集	菱田準子	ほんの森出版
解決志向ブリーフセラピー	森 俊夫	ほんの森出版
指導法		
学習の活動の4段階と少人数学習指導	清水静海	東洋館出版
子供に力をつける基礎・基本の徹底システム	伴 一孝	明治図書
評価		
子どもを変える通知表	向山洋一	明治図書
ポートフェリオ評価による通知表、指導要録の書き方	佐藤真	学事出版
期待される学校評価能力	八尾坂修	教育開発研究所
特色ある学校づくりと学習評価・学校評価	村越正則	ぎょうせい
学校教育の評価改善事例集		第一法規
校内研究等		
改訂新版 実践的研究のすすめ方	群馬教育研究所連盟	東洋館出版
幼児教育		
<わたし>の発達	岩田純一	ミネルウェ書房
実践 幼児教育	西井三紀子	文芸者
保育者の「出番」を考える	吉村真理子	フレーベル館
改訂版表現I 感性と表現	岸井勇雄	チャイルド本社
劇遊びが生きる道具作りのアイデア	大場牧夫	世界文化社
豊かな”心”に向けて 一表現一	黒川建一	フレーベル館
子供から学ぶ保育活動「人間関係」	玉井美知子	学事出版